

テーマ：「受け継がれる尼北の伝統」
(県立尼崎北高校 放送部)

稲村 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。

それでは、さっそくスタートです。どうぞ。

西本 そういえば、みんなは何で尼北入ろう思ったん？

川上 オープンハイスクール行ったときにさあ、文化祭の紹介見て、楽しそうやったからかなあ。

岡村 私と一緒にや。大人形とかも気になったしなあ。

西本 みんな何考えてんねん。「尼北」といえば水球部やろ。

磯崎 さすが。やっぱ「尼北」っていえば「水球」やんな。でも私は、「私服OK」やったからかな。

川上 私服っていいよなあ。楽やし。

岡村 確かに。昔の尼北の生徒はどんなんやったんかなあ。

磯崎 じゃあさあ、尼北出身の先生おるから、聞きに行ってみよ。

西本 尼北OBの日置先生にインタビューです。

尼北は標準服制度なので、私服での登校もできますが、今の尼北と、先生の在学当時とで、服の着こなしの違いはありますか？

日置 はい。僕が卒業してから30年弱経ちますけども、その当時は、ほとんどの生徒が、男子は今と一緒に、学生服ですね。女子はブレザーで登校していたと思います。

ただ、時代に反映されると思うんですけども、我々の頃は例えば、男子であれば学生服のズボンの上に、セーターであったりトレーナーであったり。今の子はパーカーとかを着てますけども、同じような感じだったと思います。

西本 では、先生はどのような服装でしたか？

日置 今もそうなんですけども、私は野球部に所属していましたので、野球部は学生服で3年間通しました。「暑い」とか「寒い」とかは自分で調節できますので、非常に便利に服装を考えられると、いうふうに思います。

西本 生徒に望む服装はありますか？

日置 まあ「望む」というよりも、これ、我々の時もそうだったんですが、我々が高校生の時も、その時の先生方に、この服装の自由化に関しては口うるさく言われ続けてきました。今も自分が君たちに言うように、非常に難しい問題やとは思いますが。

ただ、「何を望んでるか」と訊かれれば、世の中に出たときには、すべて自分の判断で、服装、色々な場面ですね、考えて、服装を着用しなければならないし、服装だけじゃなくて、色んな所で、自分

で考えて行動しなければならない。その練習といいますか、その基礎が、高校時代に学べれば最高かな、というふうに思います。

そういうことができる学校だとも思いますし、自分で考えて行動できる、自分で望んで、何が正しいか、何が間違ってるか、ということ判断できるような生徒になって欲しいと思います。

西本 ありがとうございます。

岡村 尼北の水球部は、ジュニアオリンピックに出場するなど、活躍しています。そこで、尼北OBで現在顧問の水上先生にお話を伺います。

高校時代の練習メニューで、「もう二度とやりたくない」と思ったメニューはありましたか？

水上 はい。実際どれもしんどかったですけど、別に「これがイヤや」というメニューはなかったですね。どちらかと言うと、今僕がみんなにやらしてるメニューの方が、イヤやなと思います。

岡村 では、今現在どんなメニューなんですか？

水上 それを訊きますか？

岡村 はい。

水上 錘を持って、「もう息ができない」というぐらいまで、ずーっとこう「巻き足」といって水に浮くんですけど、その練習をしています。

岡村 今メニューにある「巻き足」とは、どういった練習なのですか？

水上 はい。足を交互に、右足と左足を交互に巻いて、スクリューのようにして、水の中で浮いておくようにできる足の使い方のことを、「巻き足」といいます。

岡村 それは大変そうですね。他には、どのような練習メニューがありますか？

水上 はい。「水中の格闘技」といわれるぐらい、水球というのは激しいスポーツですので、普通に泳いでいても、相手に引っ張られたり蹴られたり殴られたりするんで、それに負けないような根性つける練習と、強靱な肉体を作るためのウェイト・トレーニングを、欠かさずやっています。

岡村 それでは、水上先生が水球部に入り、得たものは何ですか？

水上 はい。涙が出るぐらいキツイ練習をしていたので、キツイだけでは、やっぱり面白くなくて、キツイ練習をするからこそ勝っていけることがあって、その勝ったなかで、自分が成績を残せるってことは、やっぱり喜びだったので、今の子どもたちにも、その喜びを知って欲しくてやっています。

岡村 ありがとうございます。

磯崎 我が校の文化祭である「北高祭」の目玉、それは「大人形」です。今まで、様々な有名人がモデルになって来ました。そして、今年度の大人形のモデルは、桂米朝さんでした。

今回は、大人形・桂米朝さんを作成した2年3組の方に、インタビューしたいと思います。では、自己紹介をお願いします。

山田 2年3組の山田です。

中西 中西です。

吉永 吉永です。（「吉」は「土+口」が正しい）

磯崎 大人形を作成して、苦労したところはありますか？

山田 制作自体は大変だったんですけど、まず、材木とか買いに行くのが大変でした。

吉永 まず最初は、まっなんか、乗り気じゃなかったっていうか、「大人形」って意識が全然無かったな。

山田 確かに。実感がなかったよな。

磯崎 夏休みに集合するのは大変じゃなかったですか？

吉永 まあそうですね。なんていうか、部活とかもあるし、みんな、行ける時も行けない時もあるんですけど、そういうところは、先生がネットの掲示板をつくってくれたんですよ。独自に。

山田 はい。来られない人も常に、大人形の制作進行状況をわかるように、先生が掲示板作ってくれました。

吉永 そこで色々なこと話し合ったりとかして。先生は煽ってくれたりもするんですよ。「やばいぞ」みたいな。それで何か、クラス全体にそういう意識が生まれて、みんなで話し合っ、議論も飛び交って、だから、あんましそういうのは、苦にはならなかったですね。夏休みやから逢いづらいついていうのは。

磯崎 大人形を作ってる時、どうでしたか？

中西 最初は、何か事務的な感じでやってたけど、だんだん作っていくうちに、「大人形作る」ということが、何か周りのみんなに期待されたりとかして、だんだん、感情とか思い入れとか、そういうのが入って行って、できた瞬間に、「わあ、ちゃんとやり遂げたんやな」という思いはありました。

磯崎 大人形が完成した時の気持ちは、どうでしたか？

山田 いやー、夏休みの時間殆ど費やして作ったから、もう最後、愛着わいたよな。

中西 まあ。

吉永 うーん、なんか壮大。「こんなんやったん？」みたいな。一つ一つ分けて作ってたんで。そやな、組み立てた時はやっぱり、「すごい、でっかいなあ」みたいな。「俺たちがやったんかあ」みたいな。達成感とか感動感みたいなのがあったかな。

磯崎 一日限りの大人形を壊した時は、どういう気持ちでしたか？

山田 そうですね。夏休みの忙しい合間を使って、みんな制作しに来てくれとったんで、制作してるうちに、愛着もわいてきました。壊す時はちょっと悲しかったやんな。

中西 まあ、え、作る期間があれだけ長かったのに、一日しか米朝さんの姿を見れなかったっていうのは、ちょっと淋しかったな。

吉永 でもなんか、あれじゃない？ 崩したけど、何ていうか、みんな「おー」みたいな感じで、心には、
山田 残ってる残ってる。

磯崎 最後に、現在の尼北の小松原校長先生に、お話を伺います。今後、尼北をどのようにしていきたいですか？

小松原 本校はよく「自由な校風だ」と言われています。ただ、その「自由」という意味を、よく考えてください。これは、自らの人間性をしっかりと高めて、責任ある行動がとれる、ということを示しています。皆さんも、「自由な校風」イコール「責任ある自由」ということで、しっかりとした生活を送ってください。

私は、尼北のさらなる魅力ある学校づくりのために、生徒自らが希望する進路の実現、学校行事の充実、部活動の充実を図るために、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

磯崎 ありがとうございました。

西本 尼北のプール、水深 2 メートルもあるのって、水球部があるからなんかなあ。基本的に、巻き足で浮いてるみたいやし。

磯崎 どうなんやろなあ。まあ、深さのせいで、水泳の授業はちょっと怖いよな。でも、深さなんて関係

なく泳ぐ水球部の人たち、かっこいいよな。

西本 うんうん。新入生にもぜひ、水球部に入って欲しいわ。

磯崎 新入生のこと考えるのもいいけど、来年のこと考えてる？ 自分達が大人形作るかもしれへんねんで。先輩らが言ってた達成感、味わえるかも。

西本 自分らのこと、忘れてたわ。買出し、組み立て、色々大変そやけど、やってみたいなあ。夏休みは暑そうやけど、がんばる。

磯崎 ああ、夏はな。でも、尼北は私服 OK やから、普通の半袖着てくればいっか。そんなん考えると、私服 OK はありがたいなあ。

西本 快適なだけじゃないで。社会勉強の一部でもあること、心に留めておくべきや。

磯崎 わかってるって。あと、校長先生が言ってたみたいに、授業も部活も大切にしないと。

稲村 いかがでしたか。それでは、次回の放送もお楽しみに。

以 上